

活動報告（2014年度・2015年度）

編集後記

2014年度

総会

2014年5月14日

日仏会館

シンポジウム

2014年5月14日 日仏会館（総会終了後）

テーマ：「20世紀の演出家の時代をめぐって

——パトリス・シェローを中心にして」

パネリスト：佐藤信（演出家、座・高円寺芸術監督）

渡邊守章（演出家、東京大学名誉教授、前京都造形芸術大学舞台芸術センター長）

坂原真理（早稲田大学ほか講師）

講演会（早稲田大学演劇博物館主催、京都造形芸術大学および本協会との共催による）

2014年3月3日 早稲田大学6号館

テーマ：「パトリス・シェロー演出のラシーヌ悲劇『フェードル』における剣」

講師：ジル・ドゥクレール Gilles Declercq（パリ第3大学教授）

研究会

2014年3月5日 専修大学神田校舎7号館

テーマ：「フランスの最新舞台事情——鳴海康平氏にうかがう」

講師：鳴海康平（津あけぼの座 芸術監督・第七劇場 主宰・演出家）

聞き手：横山義志（SPAC- 静岡県舞台芸術センター文芸部、学習院大学非常勤講師）

2015年度

研究会

2015年10月23日 専修大学神田校舎7号館

テーマ：「アヴィニョン演劇祭2015概観／今シーズンのフランス演劇の注目作品をめぐって」

報告者：横山義志

モデラトール：片山幹生

「復刊」して6冊目となる今号は、事務局の体制を立て直した上での、あらたな再スタートの号と位置付けています。内容も、若手の研究者からご寄稿いただくなど、幅広い目で日仏の舞台芸術に取り組むことができていると考えています。充実した書誌情報と併せて、日仏演劇に関わる方たちにとっての貴重な資料となればと願っております。

およそ半世紀前、ジャン＝ルイ・バローの来日を機に設立された日仏演劇協会ですが、インターネットによってバーチャルな情報が一瞬にして世界を駆けめぐる現代社会の中で、身体、言葉を軸に共同の空間が持つリアリティに立脚した舞台芸術とどのように関わっていくのか、このきわめて今日的な課題を見据えながら、積極的に活動していく所存です。今後とも、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、今号の発行が遅れたことで、会員ならびに伊藤会長をはじめとした執筆者のみなさまには、ご迷惑をおかけしました。深くお詫び申し上げます。

(ね)